

第7回

都市農地保全自治体フォーラム

～ 会員自治体取組事例紹介～

平成25年7月6日 都市農地保全推進自治体協議会



昭 島 市

市長：北川 穰一

【ふれあい農業の推進】

市民農園「マイファームあきしま」や、農業体験教室「親子米づくり教室」、田畑を市民と巡る農ウォークなどの施策を行うことで、市民が農業とふれあう場を積極的に提供しています。





あきる野市

市長：白井 孝

【地産地消型農業の推進】

地元野菜などの収穫体験と郷土料理の試食などを行う『あきる農を知り隊(農ウォーク)』の実施や、小・中学校給食へ地元の旬野菜を提供し、消費者と農業者の信頼関係を深めています。



農家からの説明



郷土料理の試食



小学校での食育



足立区

区長：近藤 やよい

【農業ボランティアの育成】

高齢化や担い手不足の農家経営支援のため、農作業のお手伝いをしたい区民を募集し、農家などでの実習、講義により農業ボランティアとして養成し、登録者を希望する農家へ派遣しています。

(H24派遣実績 = 延1,271人)





板橋区

区長：坂本 健

【志村みの早生大根の復活に向けて】

志村みの早生(わせ)大根は、一度姿を消してしまっただ江戸東京野菜のひとつです。

板橋区は、この伝統野菜復活への取り組みを支援し、板橋ブランド野菜として、定着することを目指していきます。





稲 城 市

市長：高橋 勝浩

【稲城市イメージキャラクター「稲城なしのすけ」】

ガンダム等のメカニックデザインを手掛けた稲城市在住の大河原邦男氏と、マルチクリエイター井上ジェット氏のコラボにより誕生しました。特産の梨をモチーフにした梨型メカです。稲城市の魅力をもっとPRするために活躍しています。





江戸川区

区長：多田 正見

【江戸川は花と野菜のゆめ産地】

67万区民が生活する江戸川区。

大都市の中で、都内第1位の生産量を誇る「小松菜」と「東京の花どころ」と言われる花卉栽培が盛んで、産業の一躍を担っています。

花の街をPR 花の祭典



江戸川区特産 小松菜



小岩あさがお市 7月14日(日)



江戸川は
花と
野菜の
ゆめ産地





青 梅 市

市長：竹内 俊夫

【市内産農産物の利用】

青梅市は、中山間地から市街地まで様々な農地が存在するため、栽培される農産物も多種多様であるのが特色です。

これら市内産農産物は、市街地のレストラン等でも積極的に使用されており、食を通じた都市住民とのつながりが広がっています。





大田区

区長：松原 忠義

【大田区野菜と花の品評会】

区内農業者による品評会を実施しています。あわせて、区民農園や家庭菜園の野菜自慢、農業パネル展示、段ボール堆肥等のミニ講座、区内の野菜を使った料理の紹介と試食なども行い、農業への理解を深めています。



葛飾区

区長：青木 克徳

【農業体験農園】

区内初となる農業体験農園が今年8月に開園予定。6月中旬より30区画の利用者を募集中です。新たな都市農業のあり方に多くの区民から関心が寄せられています。

大春農園 (だいはるのうえん)

所在地：西水元3 - 19

園主：大畑一郎

区画・面積等：1区画約30㎡ 30区画

利用料金：1区画 45,000円（年間）





清瀬市

市長： 渋谷 金太郎

【農商工連携】

農業者と商業者が連携し、都内随一の生産量を誇る清瀬産にんじんを活用した様々な商品が考案され人気を集めています。この商品は、清瀬の特産品を販売するひまわり市でも販売され、清瀬の産業振興に貢献しています。





国 立 市

市長：佐藤 一夫

【生き生き都市農業推進事業】

用水や崖(がい)線(せん)の環境を整備するとともに、加工施設の設置や農産物のブランド化により地産地消を推進します。また、農の拠点施設の設置、イベントの開催等で農家と市民をつなぎ、農業支援を行っていきます。





小 金 井 市

市長：稲葉 孝彦

【市内農家を巡る農ウォークを開催】

市民の皆さんと一緒にキウイフルーツ、シクラメン、野菜を栽培する農家を歩いて見学しました。キウイの果実酒の試飲、ラッカセイやサトイモの収穫体験も行い、都市農業を身近に体験しました。





国分寺市

市長：星野 信夫

【国分寺市市民農業大学と援農ボランティア制度】

市民と農業者の交流の場として、平成4年より市民農業大学を開設。21年間で834名が修了。市民農業大学の課程で援農ボランティアを養成し、市内農家に紹介。現在、80名が国分寺農業の応援団として活躍中。





小平市

市長：小林 正則

【小平産野菜を使用した夏野菜カレーの日】

小学校給食の地場産野菜導入促進のため、昨年7月、市内全19校で、夏野菜を使ったカレーに献立を統一する取り組みを行いました。平成24年度の小学校給食における利用率は21.1%に達しました。





狛 江 市

市長：高橋 都彦

【農業ウォッチングラリー及び体験農園】

JAマインズ狛江青壮年部と共催で、都市農業への理解を目的に7月に開催。また、手軽に農業に親しみたいという市民ニーズに対応するため、農家から技術指導を受けられる2カ所目の体験農園を設置予定。





杉 並 区

区長：田中 良

【都市農地を守ろう！農地活用懇談会の設置・運営】

新鮮・安全・おいしい野菜の産地だけでなく、やすらぎと潤いを与え、心のオアシスとして見直されている都市農地。まちの貴重な財産として、いつまでも残したい！このような想いを託して、農地活用懇談会を設置し、都市農地の課題を検討します。





世 田 谷 区

区長：保坂 展人

【「農の風景育成地区」喜多見四・五丁目地区】

「農の風景育成地区」は東京都が緑保全制度の一つとして創設したものです。今回指定された喜多見四・五丁目地区は、農地だけでなく寺や神社等の保存樹林地、古墳などの史跡も点在し、農の風景が残っている地区です。今後は産業労働局の補助制度を活用し、農業振興・農地保全とともに、農を活かしたまちづくり等の取り組みを進めていきます。



立川市

市長：清水 庄平

【ファーマーズセンターみのーれ立川】

市内産の農畜産物や加工品、特産品の販売のほか、立川情報の発信や市民交流の場を持つ、農・商・工・観の連携を推進する多機能施設です。





多摩市

市長：阿部 裕行

【 ふれあい農業推進事業 体験農業 】

子供たちが農作物の栽培過程の一部を体験し、農業への関心を深め、農業の大切さを知ってもらうことを目的として、農業委員会と市内児童館の共催で実施しています。





調 布 市

市長：長友 貴樹

【特産物の推進】

J A マインズ調布・神代地区の青壮年部が立ち上がり、市内産の野菜を使い、それぞれの個性を生かした「調布野菜カレー」と「調布の農家がこだわったカレー」の2品を誕生させました。



調布地区青壮年部

神代地区青壮年部





中野区

区長：田中 大輔

【中野区親子農園事業】

18歳未満の子どもと同居する世帯を対象に、昭和44年から開始。貸出区画151区画(1区画9.9m²)。親子が自然に親しみ、青少年の健全育成を目指しています。



中野区親子農園所在地
(白鷺2-14)



西 東 京 市

市長：丸山 浩一

【都市と農業が共生するまちづくり事業を展開中です】

「農のアカデミー」「緑のアカデミー」「花摘みの丘」「蔵の里」等、市民が市内の農業の魅力を知り、農業・農地への理解を深める事業を行っています。





練馬区

区長：志村 豊志郎

【農とのふれあいの推進】

都市住民が、農とふれあうことを通じて、都市農業に対する理解を深めてもらうため、農園運営や様々な農業イベントを実施しています。過去5年間で延べ40,000人以上の方が練馬の農地で農とふれあいました。

< 練馬大根引っこ抜き競技大会 >





八王子市

市長：石森 孝志

【はちおうじ農業塾の開講】

平成23年度から「はちおうじ農業塾」を開講し、2年間の農業研修を実施することで、農作業の知識や技術を身につけます。卒業生は遊休農地解消を目的とした農家直営農園の利用者や、今後取り組みが望まれる、農作業受委託制度の担い手として結びつけていきます。



羽 村 市

市長：並木 心

【水田のチューリップ】



市内唯一の水田「根搦み前水田」では、秋の稲刈りが終わると、裏作を利用し、ボランティア等の協力を得て、約40万球のチューリップを植付け、関東最大級を誇るチューリップ畑となり、4月の「はむら花と水のまつり」において、観光の目玉となっています。



東久留米市

市長：馬場 一彦

【地場農産物活用事業】

東久留米市の特産で幻の柳久保小麦を使用した乾麺「柳久保うどん」を平成25年度も発売しています。柳久保小麦の独特な香りが口いっぱいになり、美味しいと好評を得ています。





東 村 山 市

市長：渡部 尚

【地産地消】

久米川駅北口イベント広場にて朝市「マルシェ久米川」を毎月第3日曜日に定例開催。市内産農産物を始め、それらを原料とした加工品を販売し、市民の好評を得ています。





東 大 和 市

市長：尾崎 保夫

【第2回グルメコンテスト うまかんべえ～祭】

市内で生産される農産物等の使用を出店条件とし、市内農業のPRや地産地消の推進をあわせたグルメコンテストを開催しました。会場では、農業者による農産物の直売も行われ大好評につき完売となりました。





日野市

市長：大坪 冬彦

【日野市立七ツ塚ファーマーズセンター】

七ツ塚ファーマーズセンターが昨年10月にオープン。農業の発信拠点として、農の学校や農業体験などによる交流事業を行い、併設する店舗では農産物や加工品を販売しています。





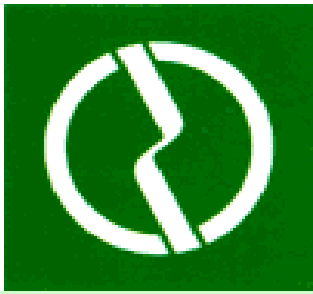
町の出町

町長：橋本 聖二

【地産地消型農業の推進】

作り手の顔が見える新鮮で安全な地元農産物の販売や地元加工品の販売を促進し、農業者の生産意欲の向上「地産地消」を根幹とした農業の維持、振興を図っていきます。





府 中 市

市長：高野 律雄

【都市農業のPR】

広く市民に都市における農地や農業の役割について感じてもらえるよう、野菜の栽培から花の栽培まで、幅広い農業体験事業を展開しています。また、農業まつり等を通じ、市民と農業者のふれあいの場を提供しています。





福 生 市

市長：加藤 育男

【福の生まれるまちから「はっ！ぴー ナッツ」
落花生を市の特産品に！】

落花生の特産品化に力を入れています。昨年秋にJA直売所で実施した「落花生祭り」には500人もの方が来店し、用意した落花生が5分で完売するほどの盛況ぶりでした。今後も市民を巻き込んだ取組みを実施していきます。



町 田 市

市長：石阪 丈一

【農地あっせん事業】

市内の市街化調整区域にある遊休化した農地を町田市が仲介、あっせんし、新たな耕し手に貸付する「農地あっせん事業」を行っています。





瑞穂町

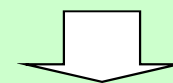
町長：石塚 幸右衛門

【農地の保全と担い手の確保】

瑞穂町では東京都と連携し、平成24年度に「人・農地プラン」を策定し、青年就農給付金事業の実施や、農地リフレッシュ再生事業などにより新規就農者が町に定着して農業が出来るよう積極的に取り組み支援しています。



施工前



施工後



三鷹市

市長：清原 慶子

【みたかのおみやげ部門「第1回TAKA-1
(みたかセレクトONE)」】事業

三鷹産農産物を材料とするなどの三鷹の魅力的な商品を「みたかのおみやげ」と認定し、広くPRすることで、地域ブランドの構築と6次産業化を推進しています。





武蔵野市

市長： 邑上 守正

【武蔵野の“農”風景に写ッター！】

フォトコンテスト

農業を身近に感じてもらいたいと、市内に残る農家の屋敷林や市民農園での農作業風景などの写真を公募し、撮影場所の地図とともに展示しています。



市長賞受賞作品
「ウントコシヨ!トッコイシヨ!」
(北町市民農園)



武蔵村山市

市長：藤野 勝

【東京でみかん狩り】

都内でみかん狩りができます。

狭山丘陵の南斜面にみかん園が6カ所あり、皮が薄く、糖度と酸味が程よい品種の「宮川早生」のもぎとりが10月下旬頃から楽しめます。





目黒区

区長：青木 英二

【農産物品評会】

区内の農家で生産された農産物の品評会を、夏と秋の2回行っています。少ない生産量ですが、丹精込めて作られた野菜や果物が出品され、その後の即売を楽しみに待っている区民の方々に喜ばれています。

